

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493100364	事業の開始年月日	平成28年12月1日
		指定年月日	平成28年12月1日
法人名	株式会社三文サービス		
事業所名	プラチナ倶楽部 グループホーム港南台		
所在地	(234-0054) 横浜市港南区港南台6-9-26		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和3年9月21日	評価結果 市町村受理日	令和3年11月26日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

新型コロナウイルス感染防止の為、面会制限をしている事業所が多い中、弊社では産業医、安全衛生委員と連携を取り、ご家族にも感染防止対策にご協力を頂きながら、できる限りの対面面会を継続しています。隣接地にある公園への外出支援や、どんなADLの状態像であっても取り組めるライフキネティックという体操の実施など、機能訓練にも積極的に取り組んでいます。また介護現場で最も多い事故事例である誤薬に対する対策として、開所当時から提携する薬局と連携し、服薬ロボットの導入を行い、誤薬事故を防止する取り組みも進めています。認知症介護の現場であることから、職員には積極的に専門資格である認知症介護実践者研修、同リーダー研修の取得を推し進め、認知症の高齢者様、そのご家族様を支え、寄り添った対応を心掛けています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年10月21日	評価機関 評価決定日	令和3年11月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所はJR根岸線「港南台駅」または「洋光台駅」から「白杵」バス停または「港南台第一小学校前」バス停下車、徒歩2分の距離です。緑のある敷地には同一法人の運営する介護センター（通所、認知症対応型通所、小規模多機能型居宅介護、居宅介護支援、訪問介護）や倶楽部ハウス（住宅型有料老人ホーム）が併設されています。

<優れている点>

健康管理に優れ、入居者に加えて職員への配慮も行き届いています。入居間もない利用者には「眠りスキャン」システム（3室3人まで）を稼働させ、1日の合計眠り時間（最低6時間）を確認したり、起きる時間を記録して支援に繋いでいます。職員のメンタルヘルスカケアは安全衛生管理者（常勤巡回看護師）が毎日の巡回時に気配り・相談を受けています。また、「服薬ロボット」（薬局との連携、リース）は入居者全員の薬を1週間単位に専用のケースで服薬時間などを管理しています。飲み時間前に声で知らせ、明かりが点灯します。時間になれば対応することで服薬へのストレスが職員から消えました。現状では誤薬などの事故はほぼゼロとなっています。コロナ禍でも対面面会を継続しています。協力医、看護師、職員は協同して安全・安心の各種感染防止対策を続けています。

<工夫点>

eラーニングによる全員の一般研修の受講管理に加え、認知症各種専門資格（認知症介護実践者研修・同リーダー研修）の積極的受講を推奨し、個別の受講管理を実施しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	プラチナ倶楽部 グループホーム港南台
ユニット名	1 ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	社内研修や教育の機会、定期ミーティングなどを活用し、管理者より職員に対して理念の説明や、それに基づくサービスの提供のあり方について共有しているが、職員の理解度を確認する場がまだまだ不十分に思う。	法人理念や社是を基に事業所理念を「ワンストップの集大成として利用者、家族、地域から愛される事業所づくり」としています。毎年9月頃に検討作成し、行為方針計画に明記し、具体的な実践テーマとしています。職員の理解度評価に取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルスの影響で、多くの交流が中止されるようになり、日常的な交流は出来なくなった。しかしながら地域のボランティア様と連携し、感染防止対策を共有しながら、施設内での地域交流活動は少しずつ再開している。また今年度、港南区より施設前公道の「ハマロードサポーター」に任命され近隣の保育園や企業と共同での管理をしていく予定である	榎戸自治会に加入しています。本部対応で会費納入しています。コロナ禍、保育園の園児が来訪した際には、外でひまわりの植えなどを共同で実施しています。「ハマロードサポーター」として区土木事務所からの依頼を受け、公道の植栽共同管理を近隣3者（グループホーム・保育園・モーター会社）で始めています。	自治会への積極的な参加が望まれます。地域密着型施設として、地域住民と事業所がともに手を携えた協同作業に向け、自治会長、各役員との交流が見える化されることを今後に期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナウイルスの影響もあり、地域展開についてはその計画のほとんどが、中止となっているが、情報発信の場として運営推進会議を利用している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を活用し、身体拘束廃止に向けた取組みの報告や意見交換を行うなどしている。また地域の実情などについて民生委員さんなどから共有をしてくださり、今後のサービスの質の向上に向けた取組みへのヒントを頂いている。	運営推進会議の開催（1・4・7・10月）は年4回です。今期はすべてを书面開催としています。案内文にアンケート用紙を同封し、意見・質問などを聞き取り、書面で返信もしています。参加者は制限のある中でも家族との交流継続を大いに評価しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	区の担当者様に運営推進会議の場などを活用して情報共有を行っている。	区の高齢障害支援課には運営推進会議開催文書の送付、同封アンケートへの質問や意見を検討し、今期は報告書として届けています。認知症作品展への参加情報が届いています。また、福祉施設として近隣住民の避難所に事業所は手を挙げています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	eラーニングなども取り入れ、職員への研修を実施し、知識不足を補える体制の構築に努めている。また指導的立場の職員が、実践の中で不適切行為がないか定期的にチェックしながら業務を行い、発見時は適宜指導するように努めている	介護サービス情報の公表制度に記載するすべての研修項目を用意し、身体拘束に関する項目も各自で履修をしています。また、運営推進会議4回では身体拘束廃止委員会を同時開催しています。日々の支援の中で管理者やフロアリーダーは職員をOJTにより、適切な指導を実施しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に教育機会を設けて禁止行為についての共有を行っている。また不適切なケアについても管理者をはじめとした指導的立場の職員が日頃から注意を払いながら対応している。eラーニングも導入し職員全員に研修も実施している	eラーニングを活用した研修を毎月第2・3週に各1本を視聴しています。虐待の防止もこの中で実施し、視聴後は必ず感想文を記述して視聴覚業務管理者へ提出しています。日々の不適切ケアの事例では業務での声掛けに特別な注意を管理者などは向けています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期研修にて学習機会を設けている他に、管理者やケアマネジャーが検討の必要なケースについて、広く関係者と協議する機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	滞りなく行うように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議の場を活用したり、日ごろからご利用者様、ご家族様とのコミュニケーションに努め、ご意見やご要望を聞くようにしている。LINE公式アカウントも開設し、気軽に家族とのやり取りができるツールも活用し、ご要望を聞くようにしている	今年は制約条件の多い中、工夫して家族面談を継続して意見や希望を聞いています。また、家族の意見をまとめてLINE公式アカウントも開設し、9割の方が利用しています。10月7日の地震では一斉同報にて利用者の安否を素早く家族へ伝えていました。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月定例のミーティングの機会を通して意見や提案を聞くようにしており、また適宜、管理者から職員に声掛けをして意見や提案を聞くようにしている。	毎月1回の定例会議で話し合いをするほか、管理者は日常的に職員へ声掛けし、個々の意見を聞き取っています。現在1階浴室の可動式リフトを2階にも増設する意見やガス乾燥機の新設もあり、法人本部での検討課題となっています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	自己評価や面談、年間行為計画の達成度など客観的な指標も使いながら、給与に反映させるなど大幅な人事評価制度の改革を行った。また職員の要望も取り入れた職場環境の改善にも鋭意取り組んでいる。	職員自らの自己評価を基に管理者は個別面談を通して話し合い、個人評価を作成し、法人本部へ報告しています。年間行為計画の達成度は随時見直しています。研修を大切に個人のスキルアップを図りつつ、常に上位職へのチャレンジを誘発しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の職位、就業態度、経験年数、各種評価結果に基づき、外部研修の参加、職場内OJTなどを個々のレベルに合わせて実施している。	管理者は多くの管理項目を評価しています。年1回の評価は5段階評価で評価誤差は面談時に捕捉をしています。外部研修や個々のOJTでは認知症介護実践者研修の習得100%を目指しています。現在3名が習得済、1名が受講中です。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	鋭意取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	出来る限り、入所検討段階からご本人と面談などを通じて、アセスメントを行い、不安を取り除くための関係性の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	出来る限り、入所検討段階からご家族と面談などを通じて、アセスメントを行い、不安を取り除くための関係性の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所を前提とした話し合いを行うことなく、ご本人ご家族のニーズを見極めて、適切なサービス提供につながるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	できる事や手伝って頂けることは、出来る限り行って頂くことを基本として、職員もご利用者様とともに役割を持った関係性が維持できるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	適宜、ご協力を仰いだり、相談しあいながら、ともにかかわっている意識を忘れないようにご家族に働きかけている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルスの影響により、多くの支障が出ているが、身近な人からの連絡が途絶えないよう、手紙や電話での交流など、できる事は継続している。	コロナ禍で馴染みの人との交流が少なくなっています。家族とはLINEを使った新しいコミュニケーション法で情報のやり取りを実施しています。入居者の13名が併設のデイサービスからの利用者のため、多くの情報がデイサービスとも共有され、活用が図られています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	依存したり、排除したりすることが無いよう、適宜、職員が間に入りながらご利用者様同士の交流も行うよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	こちらから直接連絡するようなことはしていないが、相談などが来た際などはきちんと対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活記録やアセスメントなどを整理しながら、ご本人との会話の中から希望や要望を吸い上げられるように努めている。	日々の生活記録から何気なく発した言葉や気持ちなどの記録を抽出し、アセスメントシートの記録に照らした本人の思いをまとめています。また、多くの利用者が同一敷地内のデイサービスを利用した経緯からデイサービスとの情報共有にも力を入れています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時以外にも、支援方法に悩んだ時などは関係者の方からヒアリングを行い、把握するように努めている。また日々の生活の中の何気ない会話から生活歴についても把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	画一的なサービス提供にならないように個別記録などを活用しながら、ご本人を優先したサービス提供に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的話し合いを行い、モニタリングやアセスメントの結果を通して、関係者にてカンファレンスを行い、介護計画に反映するように努めている。	カンファレンスは毎月、モニタリングは半年に1回実施し、関係者で意見を出し合っています。本人がより良く暮らすため、支援の課題やニーズをより具体的にプランに表現しています。支援記録のナンバーとプランのナンバーとは番号リンクしていません。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録を取ることはもちろん、ご利用者の様子に変化の兆しがみられるときなどは、特に細かく時系列に沿って、観察視点の共有と、細かい利用者の言動、行動の記録を行うよう徹底し、その結果を反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	同一敷地内に各種介護保険サービスを併設させており、ニーズに合わせたサービスの提供に努めており、保険での対応が難しいものについても、介護事業指導課などに相談しながら対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近所のスーパーへの買い物は新型コロナ対策の為実施できていないが、公園への散歩など近隣の資源を活用した支援に努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診時は常に本人や家族の意向を伺うようにしている。	契約医は週2回来訪しています。職員と契約医は「往診連絡票」によって報告と指示を交わしています。法人の職員看護師が毎日2度訪問し利用者を見守っています。服薬は提携薬局の管理のもとに「服薬ロボット」が、利用者ごと、時間ごとに服薬を知らせる仕組みを採用し、誤薬防止とスタッフの負担軽減に繋がっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日法人内の看護師が巡回し、申し送りや連携を徹底している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急性期を中心とした関係医療機関との連携に努め、必要に応じて、入院時の情報提供や退院に向けたカンファレンスを実施している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	提携医などの助言に基づき、カンファレンスを行い、面談もしくは書面にて共有している。	入居時に「重度化等に対する指針」に基づいて本人、家族の意思を確認しています。重度化した際には家族の意思を確認しつつ契約医、看護師とともにカンファレンスを実施し、看取りに向けた介護計画を作成しその体制に入ります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的研修に限らず、実際の現場でのOJTも行いながら実践につなげている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練を実施し、避難方法などを確認している。	年2回、利用者も含めて避難訓練を実施しています。停電対策としてエレベーター復旧や緊急時の地下水汲み上げ用にバッテリーや電気自動車を備えています。災害用備蓄品は所内4箇所に分散配備しています。現在BCP（事業継続計画）を策定中で、更なる安全確保を目指しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人に常に敬意を払った対応するよう周知徹底している。	社是に利用者の尊厳、価値観の尊重を謳い、朝礼時に全員で斉唱しています。思いをうまく表現できない認知症高齢者のニーズを、勤に頼らずに聞き出す技術習得のため、職員ができるだけ認知症介護実践者研修を習得できるよう支援しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	何気ない会話の中で、ご本人の希望やニーズを見出せるように配慮している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	プログラムは目安とし、体調や本人の気分などを優先している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	出来る限り本人と一緒に着替えなどを選ぶようにしている。			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご本人の体調なども考慮しながら盛り付けや片づけ等を一緒に行うように心がけている。 また定期的にお菓子作りや出前など楽しめるメニューなども提供している。	朝食は施設のキッチンで職員が作り、昼・夜食の献立策定と調理は同一敷地内にある法人の他厨房で管理栄養士と調理士が行なっています。月に一度、利用者の要望に応えるイベント食は施設のキッチンで利用者も参加しながら職員が作っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	往診医や看護師、歯科医師などとも協力し、適切な形で提供できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科医師、歯科衛生士から助言を得ながら、口腔ケアの支援を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表などを活用しながら、個別に声掛けを行い、トイレ誘導を行ったり、できる限りトイレに座る時間を作り、自立した排泄が続けられるよう支援している。	利用者の排泄パターンを把握しながらその人に合わせた誘導を行っています。トイレにゆっくり座ることで自立した排泄に繋がった改善事例もあります。便秘予防として水分管理・腹部マッサージやヨーグルトで自立排便に向けた取り組みをしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	季節に応じた水分摂取の在り方や、適切な薬でのコントロールなどを行って支援している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週3回、基本的な順番は決まっているが、本人の希望を聞くようにし、入浴日を入れ替えたり、翌日に変更するなど柔軟に対応している。また柚子湯やしょうぶ湯など季節感も感じて頂ける様、配慮している	入浴は週3回、順番を決めていますが個々の状況に合わせて柔軟に対応しています。可動式リフトを備え、座位が取れる利用者はすべて入浴が可能です。同性介助を基本とし、利用者の思いを聞く機会としても大切に支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	無理に起こしたり、寝かしたりせず、本人の生活リズムに合わせて寝て頂くよう支援している。また機械による睡眠傾向の把握を行い、生活リズムが整えられるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局と連携し、服薬管理ロボットを使用して、誤薬を防ぐ取り組みを実施している。また新しい服薬が始まる際は、内容について周知して目的や期間なども共有するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の家事の手伝いや、元々持っていた趣味などを途切れることなく継続してもらえるように支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルスの影響により、隣接する公園への散歩程度しか行えていない。	利用者の多くは散歩が好きで、以前は近くの公園やスーパーによく出かけていましたが、新型コロナウイルスの影響で買い物には行けず、密が気にならない公園の散歩が唯一の外出機会となっています。敷地内の小さな畑と一緒にひまわりの種を植えたり、ネギを収穫したりして外の空気を吸っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ほとんど使う場面はなく、現金の所持については管理上の問題から行えていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ビデオ面会や電話、手紙での交流を支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに飾り付けを工夫したり、寒がりな人やトイレまでの歩行が困難な人など、席配置なども工夫しながら過ごして頂いている。	リビングは広く明るく、ほとんどの利用者が昼間はテレビを見たり体操をしています。新型コロナウイルス対策として、オゾン発生式空気清浄機を稼働させ、次亜塩素酸水も必要に応じて噴霧できるよう備えています。一週間に一度、脳トレと機能訓練を兼ねたライフキネティクス体操をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有フロアに居ても、TVを見たり、ソファでくつろいだりできるように配慮している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	出来る限り、好きなように家具の持ち込みやレイアウトして頂けるよう居室利用のルールは少なくしている。	介護ベッド・エアコン・カーテン・一間幅の大きなクローゼットが備えつけられています。各居室の清掃は日々の清掃のほか、リネン交換の際に徹底して行なっています。感染症対策として簡易陰圧装置と陰圧テントを準備しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	分かりやすい表示の掲示や、転倒しないように段差を排除するなどし、自由に活動できるような環境整備に努めている。		

事業所名	プラチナ倶楽部 グループホーム港南台
ユニット名	2ユニット

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	社内研修や教育の機会、定期ミーティングなどを活用し、管理者より職員に対して理念の説明や、それに基づくサービスの提供のあり方について共有しているが、職員の理解度を確認する場がまだまだ不十分に思う。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルスの影響で、多くの交流が中止されるようになり、日常的な交流は出来なくなった。しかしながら地域のボランティア様と連携し、感染防止対策を共有しながら、施設内での地域交流活動は少しずつ再開している。また今年度、港南区より施設前公道の「ハマロードサポーター」に任命され近隣の保育園や企業と共同での管理をしていく予定である		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	新型コロナウイルスの影響もあり、地域展開についてはその計画のほとんどが、中止となっているが、情報発信の場として運営推進会議を利用している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を活用し、身体拘束廃止に向けた取組みの報告や意見交換を行うなどしている。また地域の実情などについて民生委員さんなどから共有をしてくださり、今後のサービスの質の向上に向けた取組みへのヒントを頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	区の担当者様に運営推進会議の場などを活用して情報共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	eラーニングなども取り入れ、職員への研修を実施し、知識不足を補える体制の構築に努めている。また指導的立場の職員が、実践の中で不適切行為がないか定期的にチェックしながら業務を行い、発見時は適宜指導するように努めている		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に教育機会を設けて禁止行為についての共有を行っている。また不適切なケアについても管理者をはじめとした指導的立場の職員が日頃から注意を払いながら対応している。eラーニングも導入し職員全員に研修も実施している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	定期研修にて学習機会を設けている他に、管理者やケアマネジャーが検討の必要なケースについて、広く関係者と協議する機会を持つようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	滞りなく行うように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議の場を活用したり、日ごろからご利用者様、ご家族様とのコミュニケーションに努め、ご意見やご要望を聞くようにしている。LINE公式アカウントも開設し、気軽に家族とのやり取りができるツールも活用し、ご要望を聞くようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月定例のミーティングの機会を通して意見や提案を聞くようにしており、また適宜、管理者から職員に声掛けをして意見や提案を聞くようにしている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	自己評価や面談、年間行為計画の達成度など客観的な指標も使いながら、給与に反映させるなど大幅な人事評価制度の改革を行った。また職員の要望も取り入れた職場環境の改善にも鋭意取り組んでいる		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の職位、就業態度、経験年数、各種評価結果に基づき、外部研修の参加、職場内OJTなどを個々のレベルに合わせて実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	鋭意取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	出来る限り、入所検討段階からご本人と面談などを通じて、アセスメントを行い、不安を取り除くための関係性の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	出来る限り、入所検討段階からご家族と面談などを通じて、アセスメントを行い、不安を取り除くための関係性の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所を前提とした話し合いを行うことなく、ご本人ご家族のニーズを見極めて、適切なサービス提供につながるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	できる事や手伝って頂けることは、出来る限り行って頂くことを基本として、職員もご利用者様もともに役割を持った関係性が維持できるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	適宜、ご協力を仰いだり、相談しあいながら、ともにかかわっている意識を忘れないようにご家族に働きかけている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	新型コロナウイルスの影響により、多くの支障が出ているが、身近な人からの連絡が途絶えないよう、手紙や電話での交流など、できる事は継続している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	依存したり、排除したりすることが無いよう、適宜、職員が間に入りながらご利用者様同士の交流も行うよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	こちらから直接連絡するようなことはしていないが、相談などが来た際などはきちんと対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活記録やアセスメントなどを整理しながら、ご本人との会話の中から希望や要望を吸い上げられるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時以外にも、支援方法に悩んだ時などは関係者の方からヒアリングを行い、把握するように努めている。また日々の生活の中の何気ない会話から生活歴についても把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	画一的なサービス提供にならないように個別記録などを活用しながら、ご本人を優先したサービス提供に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	定期的話し合いを行い、モニタリングやアセスメントの結果を通して、関係者にてカンファレンスを行い、介護計画に反映するように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録を取ることはもちろん、ご利用者様の様子に変化の兆しがみられるときなどは、特に細かく時系列に沿って、観察視点の共有と、細かい利用者の言動、行動の記録を行うよう徹底し、その結果を反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々で生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	同一敷地内に各種介護保険サービスを併設させており、ニーズに合わせたサービスの提供に努めており、保険での対応が難しいものについても、介護事業指導課などに相談しながら対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近所のスーパーへの買い物は新型コロナ対策の為実施できていないが、公園への散歩など近隣の資源を活用した支援に努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	受診時は常に本人や家族の意向を伺うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎日法人内の看護師が巡回し、申し送りや連携を徹底している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急性期を中心とした関係医療機関との連携に努め、必要に応じて、入院時の情報提供や退院に向けたカンファレンスを実施している。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	提携医などの助言に基づき、カンファレンスを行い、面談もしくは書面にて共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期の研修に限らず、実際の現場でのOJTも行いながら実践につなげている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的な避難訓練を実施し、避難方法などを確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人に常に敬意を払った対応するよう周知徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	何気ない会話の中で、ご本人の希望やニーズを見出せるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	プログラムは目安とし、体調や本人の気分などを優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	出来る限り本人と一緒に着替えなどを選ぶようにしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご本人の体調なども考慮しながら盛り付けや片づけ等を一緒に行うように心がけている。 また定期的にお菓子作りや出前など楽しめるメニューなども提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	往診医や看護師、歯科医師などとも協力し、適切な形で提供できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科医師、歯科衛生士から助言を得ながら、口腔ケアの支援を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表などを活用しながら、個別に声掛けを行い、トイレ誘導を行ったり、できる限りトイレに座る時間を作り、自立した排泄が続けられるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	季節に応じた水分摂取の在り方や、適切な薬でのコントロールなどを行って支援している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週3回、基本的な順番は決まっているが、本人の希望を聞くようにし、入浴日を入れ替えたり、翌日に変更するなど柔軟に対応している。また柚子湯やしょうぶ湯など季節感も感じて頂ける様、配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	無理に起こしたり、寝かしたりせず、本人の生活リズムに合わせて寝て頂くよう支援している。また機械による睡眠傾向の把握を行い、生活リズムが整えられるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬局と連携し、服薬管理ロボットを使用して、誤薬を防ぐ取り組みを実施している。また新しい服薬が始まる際は、内容について周知して目的や期間なども共有するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	日々の家事の手伝いや、元々持っていた趣味などを途切れることなく継続してもらえるように支援している。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルスの影響により、隣接する公園への散歩程度しか行えていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ほとんど使う場面はなく、現金の所持については管理上の問題から行えていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ビデオ面会や電話、手紙での交流を支援している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節ごとに飾り付けを工夫したり、寒がりな人やトイレまでの歩行が困難な人など、席配置なども工夫しながら過ごして頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有フロアに居ても、TVを見たり、ソファでくつろいだりできるように配慮している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	出来る限り、好きなように家具の持ち込みやレイアウトして頂けるよう居室利用のルールは少なくしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	分かりやすい表示の掲示や、転倒しないように段差を排除するなどし、自由に活動できるような環境整備に努めている。		

2021年度

事業所名 プラチナ倶楽部グループホーム港南台
作成日： 令和 3年 11月 23日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	新型コロナウイルスの影響から地域交流がおざなりになっている。地域密着型サービスとして積極的な地域交流が図れる様、自治会との協力が必要。	自治会と連携し、地域の困りごとの共有や行事などへの積極的参加を通して地域との関わりを強化する。	法人本部に対して届く地域からの情報を事業所でも共有し、行事へ積極的に参加する。地域交流の参加報告書を新たに作成し、実績として管理し、運営推進会議など外部への情報発信を強化する。	12ヶ月
2	21	日常的な外出支援が中々行えていない。感染症の影響も大きい、運動機能の低下から歩行能力の低下が危惧される。	個別支援のプログラムに明記し、気分転換も兼ねた外出支援の機会を増やせるように、計画的に実践するよう努める。	1か月の計画の中に外出支援の機会を作り、それに基づいた支援機会の創出を図る。地域の方との交流機会の創出にもつながるよう、火曜日と金曜日に実施されるゲートボールの見学などを計画、実施する。	12ヶ月
3	7	LINE公式アカウントを開設し、家族とのコミュニケーション強化が図られているが、管理者しか使いこなせず、現場に即した情報共有がまだまだ足りない。利用率100%を目指した家族への案内と利用促進を行いたい。	各フロアリーダーに操作方法を指導し、タイムリーな情報発信力の強化を図る。事業所の情報などをできるだけ公開し、運営の透明性と家族からの意見を取り入れる環境を強化していく。	こまめに利用者様の情報を家族と共有し、ご家族と共に一体的な支援となるよう協力体制を強化する。	12ヶ月
4	26	介護計画能力やモニタリング能力に欠ける職員が多く、管理者と計画作成担当者に負担がのしかかっている。	介護福祉士資格取得者、正社員が中心となりチームメンバーでミーティングを行い、チームとしてモニタリング、介護計画作成ができるようになる。	モニタリングの評価方法の指導を行い、評価視点の育成を行う。認知症介護実践研修など課題抽出能力・計画作成能力育成に関わる研修などを積極的に受講させ、課題設定や具体的支援方法の立案法について教育をしていく	12ヶ月
5					ヶ月